福島大学 うつくしまふくしま未来支援センター
相双地域支援サテライト

〒979-0604 福島県双葉郡楢葉町下小塙麦入31 楢葉まなび館内
TEL:0240-23-6675 FAX:0240-23-6676

川内分室
〒979-1292福島県双葉郡川内村上川内早渡11-24 川内村役場内
TEL/FAX: 0240-25-8995

南相馬分室
〒975-0004 福島県南相馬市原町区旭町1-8 みなみそうま復興大学内
TEL/FAX:0244-24-2563

過去を知り、今を感じ、これからを考える

福島復興体験・研修プログラム

SOU-SOU Re:bornツアー

相双

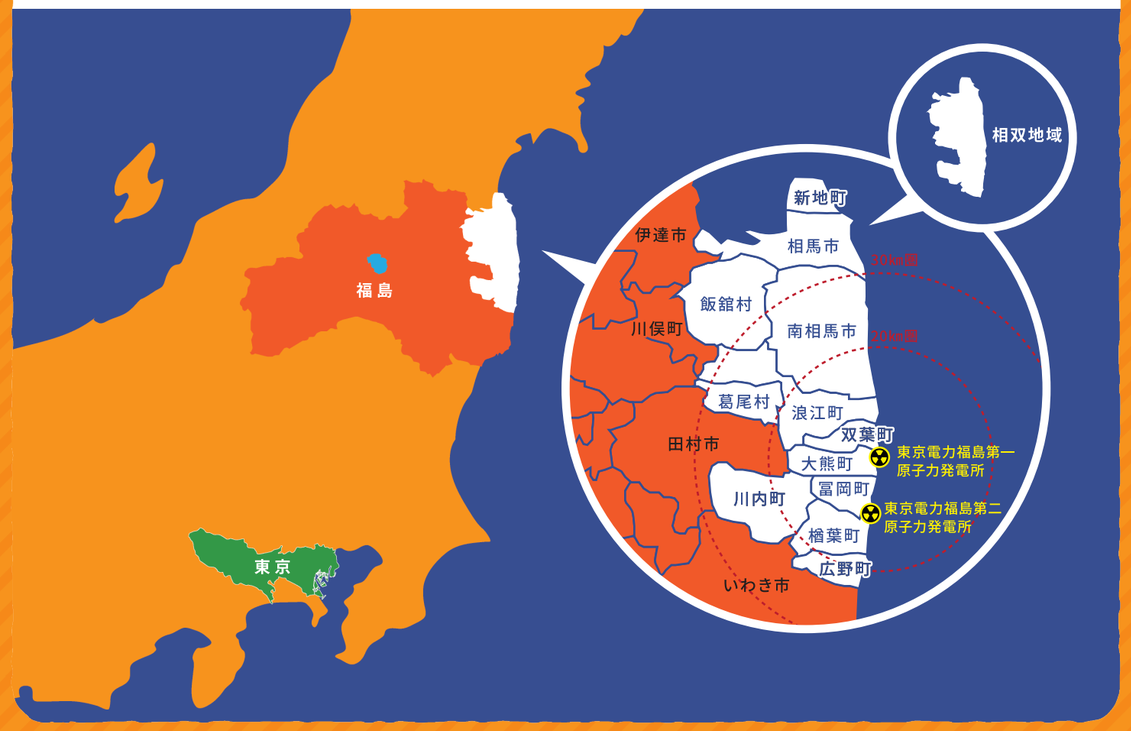
福島大学うつくしまふくしま未来支援センター
相双地域支援サテライト

001_ol.indd 1-2 2018/06/07 10:44:50

福島県相双（そうそう）地域について

相双地域は福島県の東部、太平洋沿岸部の浜通りの北部を指します。海も山もある自然豊かなエリアで、サッカーのナショナルトレーニングセンター「Jヴィレッジ」やテレビ番組の企画である「DASH村」などで知っている方も多いのではないでしょうか。双葉町と大熊町には東京電力福島第一原子力発電所があり、地域経済を支えてきました。

東日本大震災では津波による深刻な被害に原発事故も重なり、相双地域のうち南相馬市（みなみそうまし）、飯舘村（いいたてむら）、広野町（ひろのまち）、楢葉町（ならはまち）、富岡町（とみおかまち）、川内村（かわうちむら）、大熊町（おおくままち）、双葉町（ふたばまち）、浪江町（なみえまち）および葛尾村（かつらおむら）、加えて田村市（たむらし）、川俣町（かわまたまち）の12の市町村で、全域もしくは一部の住民が県内外の各地への避難を余儀なくされました。いまも立ち入りが制限される「帰還困難区域」が残るほか、その他の地域でも復興はまだまだ道半ばの状況です。長期にわたる廃炉作業と平行する形での住民の帰還促進、生活再建、原発事故による風評被害の払拭など、他の被災地にはない困難さを抱えつつ、地元の皆さんは一歩一歩、復興に向けて前に進んでいます。



SOU-SOU Re:bornツアーとは？

背景と目的

2011年3月、東日本大震災とそれに続く東京電力福島第一原子力発電所事故という、未曾有の複合災害に見舞われた福島県双葉郡。復興にはいまだ多くの課題が残されている一方、震災から6年が経過し、社会や人々の関心が薄らいでいるという厳しい現実があります。

そこで、地域を対外的により開かれたものにし、様々な企業・団体・人とつながることでこのギャップを解消し、双葉郡の内から外から復興の気運を高めようと始まったのが、復興スタディツアー『SOU-SOU Re:born（リボーン）ツアー』です。

「過去を知り、今を感じ、これからを考えること」をテーマに、そこにあたりまえにあった日常を被災地の人が取り戻すために何ができるか、より多くの人に考えていただくきっかけ作りの場を提供することが目的です。

主催：福島大学うつくしまふくしま未来支援センター 相双地域支援サテライト

東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故の被害を受けた双葉地域と福島大学をつなぐ現地の拠点として設立。10人の職員が駐在し、地域再生を目指して、大学の持つノウハウやそれぞれの社会経験を活かし、住民に寄り添った支援活動を展開。

協力：ふたばの明日を考える会

双葉郡８町村の復興推進関連業務に携わる実務者が相互交流を通じて現場の課題を把握し、広域的視点で地域の復興に貢献する施策の立案・実施につなげるために2015年11月に発足した会。

Re:bornツアーの特徴

見学や単発のお手伝いをするだけでなく、学びや交流から「共感」を醸成し、先の見えない復興に対し何ができるかを一緒に考えることで、次のアクション、ひいては息の長い支援につながるきっかけを提供

1. 体験型プログラムとワークショップを組み合わせた内容で、参加者の学びやインスピレーションを促します
2. 復興の最前線にいる双葉郡８町村の職員との交流を通じて、現状や課題を把握することができます
3. 復興に取り組むNPO団体や民間企業などを訪問し、復興の多様な形を知る機会を提供します
4. 関係者からの事前レクチャーによって、基本的な知識と高い意識を持ってツアーに参加できます
5. 参加企業・団体のニーズや要望を踏まえた、オーダーメイドのプログラム作りが可能です

001_ol.indd 2-3
2018/06/07 10:44:51

Re:bornツアーが　提供できるもの

見る・知る

相双地域の現状を正確に理解してもらうためにも、「まずは現地に来て、見てもらいたい」という地元の皆さんの思いは大変強いものがあります。津波や地震が残した爪痕や復興の現場に加え、廃炉作業の進む福島第一原子力発電所、原発事故がもたらした地域への影響など、普段マスメディアやインターネットで見聞きするだけでは伝わらない、その地に立ち、自分の目で見ることで初めてわかること、感じることがあります。そこで自然と生まれる気持ちが次のアクションにつながるかもしれません。

Re:bornツアーでは、参加企業・団体の希望やスケジュールにあわせ、地域の現状が端的にわかる視察先をバランスよく提案・調整します。

語り部の話を聞く

2011年3月11日に何が起こったのか、現場にいた人はどう行動したのか、未曾有の災害をどのように乗り越えようとしたのか、そして今何をし、何を思うのか ー 実際に体験している人の生の声は聞く人の心を強く揺さぶります。語り部の皆さんの教訓は地域を越えて社会全体の財産です。また、語る側にとっても自身の体験を共有して人とつながることが励みとなります。

相双地域では、自治体職員や教育関係者、地元企業の経営者、元東電社員といった方々にそれぞれの立場での体験をお話していただけます。また、おじいちゃん、おばあちゃん、主婦から学生さんまで町民・村民の皆さんの語り部も多く、それまであたりまえにあった生活が震災で一変する体験は、参加者も自分のこととして耳を傾けることができます。

体験する・交流する

一般的に、非日常性の高い体験型のプログラムは心身のリセット・リフレッシュになるだけでなく、目や耳からの情報を補ってより強い共感をもたらします。まだまだ必要とされるがれき撤去、草刈り、伐採、家の片付けや清掃などのボランティア活動、営農を再開した農家のお手伝い、漁業の復興を肌で感じる鮭漁の体験など、参加者が実際に体を動かすプログラムをご提案します。

また、相双地域支援サテライトが持つ地元自治体や「ふたばの明日を考える会」とのネットワークを活用して自治体職員や住民との交流の場を作れるのもRe:bornツアーならではのプログラムです。懇親会やバーベキューなどカジュアルな雰囲気の中で地元の皆さんの本音を聞き、自分が感じたことを話すことで、被災地がもっと「顔の見える場所」になります。

ともに考える

被災地支援に積極的な企業や団体では、社会貢献活動の一環としてだけでなく、被災地との関わりを通じた職員・社員の教育研修、ひいてはビジネスや事業へのポジティブな影響を期待し現地訪問・視察を検討するケースが増えています。この場合、見る・聞く・体験するだけに留まらず、研修やワークショップなど、自分で、あるいは仲間や地元の人と一緒に「考える」プログラムを組み入れることが効果的です。自分たちの問題として考えることで、継続的な関わりにもつながります。

災害対応や防災、多くの住民が避難先にいる中でのコミュニティの形成などこの地域だからこその課題から、雇用創出、高齢化や過疎化など日本の地方に共通する社会課題まで、切り口は様々です。Re:bornツアーでは参加される企業・団体のニーズをお聞きしながら、適切なトピックとプログラムをオーダーメイドで一緒に作り上げていきます。

001_ol.indd　4-5　　2018/06/07　10:44:56

事例A：某IT企業

地域課題解決型

日程 1泊2日　参加人数 20名

ツアー参加の狙い：

アクティビティや交流など参加者が楽しめるプログラムも盛り込みつつ、地域の人から直接話を聞くプログラムを中心に構成し、まずは被災地の現状・課題の理解につなげる。さらに、ワークショップを通じて個人としての関わりだけでなく社会課題解決をビジネスの観点から考える機会を提供する。

1日目

（一社）AFW代表の吉川彰浩さんから東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の状況について聞く。

郡山駅 発

広野町

広野町公民館（約1.5時間）

NPO法人浅見川ゆめ会議理事長の鈴木正範さんから防災緑地整備への地域住民の関わりを聞く。

広野町防災緑地視察（約30分）

楢葉町

上繁岡水田復興会代表の佐藤充男さんに営農再開に至るまでのお話を聞く。

楢葉町内視察（約40分）

富岡町教育長の石井賢一さんから震災・原発事故からの復興の状況、今後の展望についてお話を聞く。

上繁岡水田復興会（約1.5時間）

川内村

バーベキューを楽しみながら双葉郡各町村職員や地元の皆さんと交流。

いわなの郷（約30分）

交流会
宿泊

2日目

いわなの郷（宿泊先）

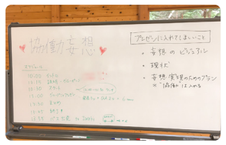
敷地内の釣り堀でイワナ釣り体験のアクティビティに参加。

アクティビティ（約2時間）

前日に見聞きしたことを振り返って地域の課題を洗い出す。その後、双葉郡各町村の職員も交えてグループごとに課題解決に向けたアクションプランを作成し、最後に全体で発表。

いわなの郷

地域課題解決ワークショップ（昼食を挟み約3.5時間）



いわなの郷　発

いわき駅　着

事例B：官公庁

国家公務員研修

日程 1泊2日　参加人数 20名

ツアー参加の狙い：

災害が発生した時、省庁や自治体にどのような対応が求められるのか、公務員としてどんな心構えが必要なのか、福島の経験から学ぶ。単なる視察にとどまらず、現地自治体職員との意見交換・交流で生の声を聞いたり、実践に役立つワークショップなどのプログラムで現地スタディツアーを構成したい。

1日目

双葉郡未来会議代表の平山勉さんからの復興に向けた双葉郡8町村の住民有志による活動についてお話を聞く。

いわき駅　発

広野町公民館（約1時間）

楢葉町ではJヴィレッジ、津波浸水地域や天神岬を、富岡町では夜の森のバリケードや津波被害にあったパトカーを展示する講演などを視察。

楢葉町内視察（約1時間）

富岡町内視察（約1時間）

楢葉町

避難先の体育館などで押し寄せる住民を適切に配置し、その後の集団生活を円滑に運営するためのルールを作るなど、当時に経験やそこから得たノウハウを追体験するワークショップを実施。

楢葉町役場避難所ルール作りワークショップ（約2時間）

「双葉郡に来て、見て、聞いて、知って、考えたこと」を、①今すぐやるべきこと、②10年後の成果を目指し、今なすべきこと、③50年後の成果を目指し、今なすべきこと、の3点から、住民も参加して討議。

地元住民とのグループワーク（約1.5時間）

しおかぜ荘
交流会
宿泊

2日目

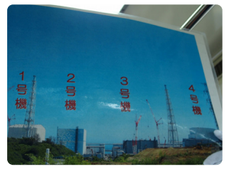
しおかぜ荘（宿泊先）

廃炉講座（約2時間）

1号機から4号機の俯瞰、凍土遮水壁設備や夜の森線鉄鋼塔倒壊現場、サブドレイン浄化設備建屋などを視察。

大熊町

福島第一原子力発電所視察（約3時間）



発電所　発

いわき駅　着

001_ol.indd　6-7　2018/06/07　10:45:03

事例C：某製薬企業

人事研修型

日程 2泊3日 2日目にツアー参加

参加人数 17名

ツアー参加の狙い：

被災地支援を社員研修として捉え、業務の見直しやモチベーションアップに役立てたい。被災地で懸命に復興を目指す方や、新たな価値の創造に取り組むリーダーとの交流を通して、異なる視点で自らの業務を振り返り、新たな目標を見出すきっかけにつながることに期待。

南相馬市

宿泊先を出発

楢葉町

天神岬 みるーる（約30分）

天神岬の一角に設けられた津波防災対策ビューポイント。津波被害に関する説明パネルが設置されている。Re:bornツアー担当者が震災・原発事故の被災・復興状況を説明。

居酒屋「結のはじまり」にて昼食

千葉県出身で、復興作業員と住民の交流の場を作って復興の力になりたいと居酒屋「結のはじまり」を開いた古谷かおりさんから、自身の紹介と店オープンの経緯と浜通りへの思いをお聞きする。

木戸川漁業協同組合（約1時間）

全国有数の“鮭が遡上する川”として知られる木戸川では2015年からふ化事業が再開。その復興を描いたノンフィクション『サケが帰ってきた！　福島県木戸川漁協震災復興へのみちのり』の主人公でもあるふ化場長の鈴木謙太郎さんの案内でふ化場で漁・採卵・受精作業を見学。特設販売所で買い物。

楢葉まなび館 避難所ルール作りワークショップ（約2時間）

広野町復興企画課のご担当者を講師に迎えて、避難所の生活ルール作りを模擬体験するワークショップを実施。

J-VILLAGE（約45分）

専務取締役の小野俊介氏から、Jヴィレッジ運営再開に向けた現状を聞く。その後、施設内の工事の状況を見学。

いわき駅　着

事例D：某電機メーカー

ボランティア型

日程 1泊2日 2日目にツアー参加

参加人数 20名

ツアー参加の狙い：

社員有志によるボランティアバスを岩手・宮城・福島にすでに数十回派遣していて、延べ1,000人以上が参加している。最初はがれきの撤去などのボランティア作業が中心だったが、次第に地域の人とのコミュニケーション・交流、地場産業支援などへシフトしている。今後も継続していけるよう、複数回参加しているメンバーと初めてのメンバー双方が満足でき、新たな発見のあるツアー内容にしたい。

いわき市

宿泊先を出発

楢葉町

天神岬 みるーる（約50分）

津波防災対策ビューポイントから、津波被害の大きかった地区を望む。Re:bornツアー担当者が楢葉町における震災・第一原発事故の被災・復興状況を説明。

木戸川漁業協同組合（約1.5時間）

木戸川漁協 ふ化場長の鈴木謙太郎さんの案内で、あわせ網漁の様子やふ化場での採卵・受精の作業を見学。その後、特設販売所で買い物。

楢葉まなび館にて昼食

避難所ルール作りワークショップ（約2時間）

広野町復興企画課のご担当者を講師に迎えて、避難所の生活ルール作りを模擬体験するワークショップを実施。ツアーに参加した小学生のお子さんも積極的に意見を発表。

楢葉まなび館　出発 帰路へ

001_ol.indd　8-9　2018/06/07　10:45:10

＼これまで参加された皆さんからの声／

活動されている方々の夢をあきらめない力強さ、その行動力と前向きさに感銘を受けた。自分の業務においても、環境のせいにしない「諦めない力強さ」が大切だとあらためて気づかされた。

現地のみなさんの話を聞けたこと自体が非常に学びになり、すごい教育コンテンツだと思った。学んだことをしっかりチームへ共有したい。

楢葉町の役場の方と約束したので、楢葉町の子どもたち向けにオフィスツアーをします。

避難所ルールづくりWSは、普段経験しない内容だったのでなかなか想像できず苦労したが、もしもの時には必ず役に立つだろうと思った。

百聞は一見にしかずというのはまさにこういうことを言うのだと思った

アメリカにいるので、気軽には来れない分、福島の現状を周りの人に伝えて行きたい。また、シリコンバレーからできることを考えたい。

ワークショップで出たアイデアの中には実現可能性が高いものもあり、来年また同じような取り組みでお伺いして進捗を聞きたいと思った。

スポーツを通じてどうデータを生かすか、自動運転のニーズなど、ITの可能性を感じた。

結のはじまりの訪問はとてもよかった。支援で来られている方々の話は貴重で感銘を受けた。

自分や自分の会社がどのように関わっていけばよいかをディスカッションする場があればもっとよかったと思う。

地元の方のお話をもう少し聞ければよかった。

合わせ網漁・ふ化場、興味深かった。震災の被害はこんなところにも及んでいるのだと知り、以前のようにたくさんのサケが戻ってくる木戸川を見たいと思った。

風評に惑わされず、ぜひ自分の目で状況を見てほしいと思った。

電力に関するアイディアを出したので、まずは双葉郡での発電量を調べたり、確かオランダで電力自給の島があると聞いたことがあるので、そのあたりのこともリサーチしたい。

ツアー実施までの流れ

相双地域支援サテライトへコンタクト
Re:bornツアーにご興味をお持ちいただけましたら、まずはお気軽にご連絡ください。

ご要望のヒアリング
担当者が貴社・貴団体を訪問し、ツアー参加の目的や、ツアーの中で実施したいことなど、ご要望を丁寧にお聞きします。

ツアープランのご提案
ヒアリングした内容をもとに組み立てた、オーダーメイドのツアープランをご提案いたします。

約2ヶ月前

最終行程の決定
提案プランに対して更にご意見・ご要望をお聞きし、ご担当者と一緒に最終プランを策定します。

2〜3週間前

事前レクチャーの実施
ツアーをより効果的なものにするため、双葉郡の復興の状況や訪問先の基本情報などについて担当者やプランに適した関係者が貴社・貴団体を訪問しご説明します。

ツアー当日
担当者が行程にアテンドします。

フォローアップ
ツアーで見聞きしたこと、体験したことを振り返り、次につなげていくため、アンケートやご希望によって事後レクチャーを実施します。

お問い合わせ

福島大学うつくしまふくしま未来支援センター 相双地域支援サテライト
担当：島崎 延雄

TEL:0240-23-6675

FAX：0240-23-6676　メールアドレス：r785@ipc.fukushima-u.ac.jp

001_ol.indd　10-11　2018/06/07　10:45:11